

平成21年度 第2回

金沢高専 F D 研修会を開く

6名の講師が講演

「平成21年度第2回金沢高専F D研修会」が、昨年12月19日(土)に高専合同講義室にて開催された。

金沢高専では、春にK T C授業・総合アンケート結果報告会、夏に池の平セミナーハウスでの合宿F D研修会、冬に今回のF D研修会、年度末に教育成果発表会と、年間を通してF D活動が全教員を対象として行われている。その他、教務委員会や厚生補導委員会、K T C教育評価委員会、グランドデザインプロジェクト、見える化プロジェクト、各学科での勉強会、外国人グループによるF D研修会、産学連携事業や学生支援事業、大学教育支援事業などの文部科学省選定事業などなど、F D活動に関して枚挙にいとまがないといっても過言ではない。

今回のF D研修会の狙いは、厳しい経済状況を踏まえ、学生のキャリア教育に関するスキルアップを図り、学生の進路相談や就職活動のバックアップ体制を揺るぎないものとするための能力を身につけることにある。そのため、設定されたテーマに対してグループ討議を行い、それをまとめて発表すると言った研修会ではなく、外部講師によるキャリア教育に関する講演や、実際に採用担当を行っている企業の人事グループの方の講演、金沢工大での就職指導の実践のノウハウを伺うといった内容で実施した。

まず、天日三知夫研究主事から日程と今回のF D研修会の狙いについて説明があり、次いで山田弘文校長から

高専を取り巻く環境の厳しさやキャリアデザイン教育に関するF D研修の重要性と、いよいよ学位授与機構による審査を受けるための準備段階に入らなければならない点について説明があった。

そのあとの講演では、最初に「若者を育てる」と題して、山村弘放送大学特定特任教授が、資料として「技術立国建白書」を配付し、教育界の置かれた状況や教師に求められること、若者を育てるには早い段階で人間としての自己の確立をさせなければならないことの重要性などについて講演を行った。

引き続き、「企業におけるキャリア開発支援」と題して、参天製薬(株)人事グループの西川輝美子氏、藤本仁氏の2人から、企業が求める人材像や入社後のO J Tの取り組み、採用試験において重要視している点などの話があり、就職活動に役立つ具体的な内容について聞くことが出来た。

また、本学産学連携推進部の神田信幸次長からは、金沢工大における内定状況や進路指導体制について説明があり、学生が就職先を決めて内定を貰うまでの具体的な就職指導のノウハウとして、とにかく学生1人ひとりのよい点を見いだし、きめ細かい就職指導を親身になって行うことがいかに重要であるかを力説した。また、就職活動は全教職員が一丸となって取り組まなければならないと訴えた。

昼食をはさんで、本年度新たに文部科学省から選定を受けた「学生支援推進プログラム」と「大学教育推進プログラム」の具体的な内容の紹介に移り、「共同と共創におけるキャリアデザイン教育」について秋山晃進路指導主事が、「5年一貫の工学・英語協同学習とF D活動」について向井守一般教科主任がそれぞれ説明を行った。また、向井主任からはワークショップ形式で、「よりよいC L E²授業のために」と題して、授業で役立つ簡単な英会話の言い回しに関する模擬授業が行われ、国際会議で研究発表する際に役立つテキストの紹介もあった。

土曜日の午後まで研修会が行われたが、キャリアデザイン教育の重要性や具体的な就職指導のノウハウを学ぶことが出来、意義ある研修会となった。



「若者を育てる」と題して講演した山村教授